

# 3

## 通級指導学級と在籍学級が連携したアセスメントの実施と解釈

### (1) 教師間の連携のためのアセスメント

読み書きに障害のある児童・生徒の指導においては、通級指導学級と在籍学級の教員が緊密な連携を図ることが大切です。双方の教員が連携をして児童・生徒の実態を的確に把握し、指導に必要な情報を共有しましょう。ここでは、そのためのツールを紹介します。

◆連携をサポートするツールとして有効なのが、**文字の読み書きチェックリスト**です。

#### 通級指導学級と在籍学級との連携の課題

- ◆週に1回通級指導学級を利用している児童がいます。最近音読が上手になり、読み書きできる漢字が増えました。
- ◆通級指導学級では、どのようにして児童の実態を把握し、指導の手だてを考えているのでしょうか。詳しく聞いて在籍学級の指導に生かしたいと考えています。
- ◆今度、情報交換をするための会をもつ予定です。時間を有効に使い、中身の濃い会にするための工夫を考えています。
- ◆在籍学級での様子ももっと的確にお伝えできると良いと考えています。



在籍学級の担任

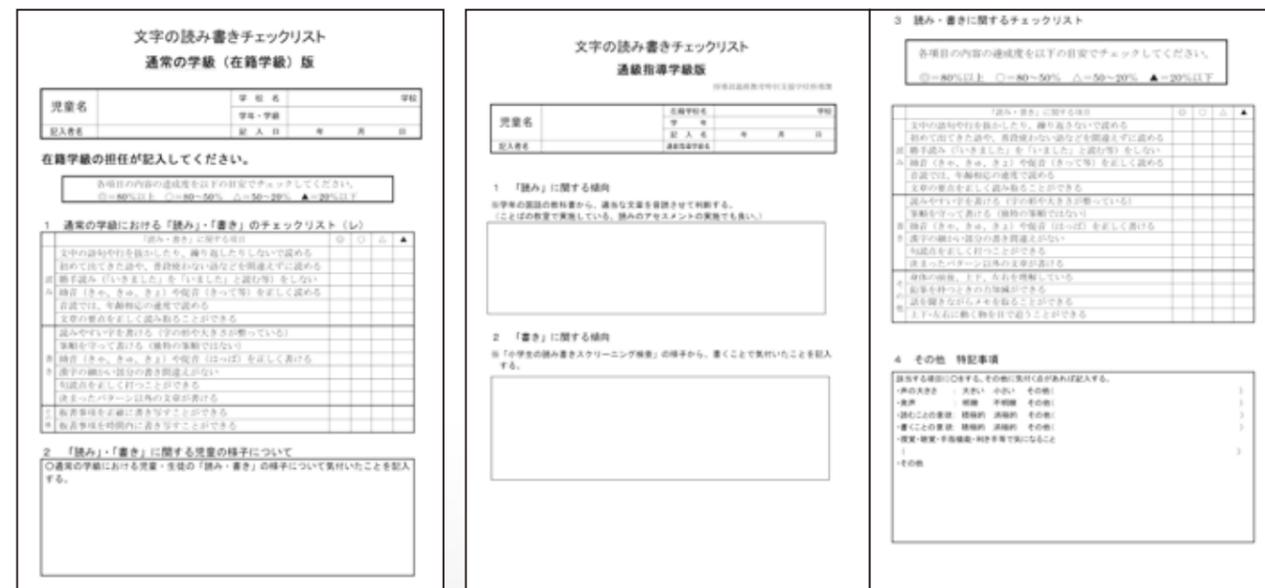
- ◆最近音読が上手になり、読み書きできる漢字が増えてきた児童がいます。在籍学級の先生に、児童がどこでつまづいているのかを詳しく伝えることができれば、これまで以上に緊密な連携ができると思います。
- ◆これまでも、在籍学級の先生とは、通級指導学級での指導内容を電話やメモ等でやり取りをしていますが、次回の情報交換の会では、アセスメントの方法についてお伝えできると良いと思います。
- ◆有意義な会にするために何か工夫したいと考えています。



通級指導学級の担任

児童・生徒のアセスメントについて有効なツールを活用してより緊密な連携体制をつくりましょう。

◆そこで**文字の読み書きチェックリスト**を導入します。



在籍学級で活用するチェックリスト

通級指導学級で活用するチェックリスト

「文字の読み書きチェックリスト」は通級指導学級の担任教員と在籍学級の担任教員がそれぞれに児童・生徒の読み書きの状態を評価するチェックリストです。

★通級指導学級では、先生の指示を聞くことができて良かったです。在籍学級でも黒板に要点を板書してみます。

★在籍学級でも逐字読みをしています。単語をまとまりとして読むことが課題であることが分かって良かったです。★漢字については「読み書き支援プログラム」に取り組みます。

★在籍学級で取り組んでいることや、児童・生徒が頑張っていることがよく分かりました。通級指導学級でも、児童・生徒ができることを生かして学習に取り組んでみます。

★通級指導学級では、分からない言葉を調べるなど、語彙を増やす指導をすることで、音読する力の育成に取り組ましますね。

在籍学級の担任

通級指導学級の担任

## (2) 通級指導学級におけるアセスメント①

学級に音読が苦手な児童・生徒はいませんか。

- 一文字ずつ途切れる読み方をしてしまう。
- 文末を読み間違える。
- 音読が遅い。
- 行をとばして読んだり、読み違えたりする。
- 「ねっこ」を「ねこ」とよんでしまう。
- このような児童・生徒は、「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」等が入った言葉がうまく読めていない可能性があり、そのことが音読の困難につながっている可能性があります。



◆このような児童・生徒の状態を把握し、学習支援を行うためのアセスメントとして有効なのが**MIM-PM**です。

### ◆MIM-PM(「めざせよみめいじん」とは

「MIM-PM (Multilayer Instruction Model-Progress Monitoring)」は、初期の読みの学習、特に特殊音節の読みに焦点を当て、計2分で実施するテストです。テストには「1」と「2」の2種類があり、「テスト1」は特殊音節が正しく書かれた単語を三択で選び取る問題で、「テスト2」は単語をまとまりとしてとらえられるかを確認する問題です。一度だけでなく、継続的に実施することで、児童・生徒の伸びについて把握することができます。

元来「MIM」(多層指導モデル[ミム])は、通常の学級において、異なる学力層の児童・生徒のニーズに対応した指導・支援をしようとするモデルであり、児童・生徒が学習につまずく前に、また、つまずきが深刻化する前に指導・支援を提供していくことを目指しています。MIM-PMは、通常の学級において実施可能なアセスメントとして開発されましたが、個に特化した場面でも活用できます。

#### 特殊音節とは

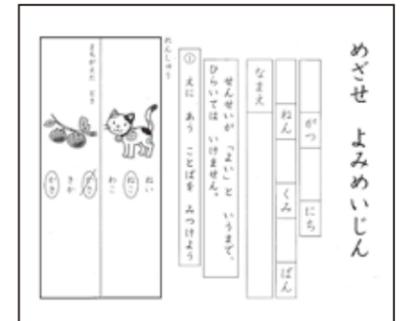
日本語は原則として、仮名1文字に対して1音節が対応します。特殊音節とは、この原則から外れた特殊な音節のことです。例えば「きって」は文字では3文字で表しますが、音は2音です。学習障害のある子供は、学習障害がない児童・生徒に比べて、この特殊音節の習得に困難があります。

※ MIM についての詳細は、国立特別支援教育総合研究所ホームページ「科学研究費報告書 - F-151 通常の学級における学習につまずきのある子どもへの多層指導モデル (MIM) 開発に関する研究」(<https://www.nise.go.jp/cms/7,388,32,134.html>) を御参照ください。

### ◆テスト1「絵に合う言葉」探し

3つの選択肢の中から絵に対応する言葉に○をつける課題です。

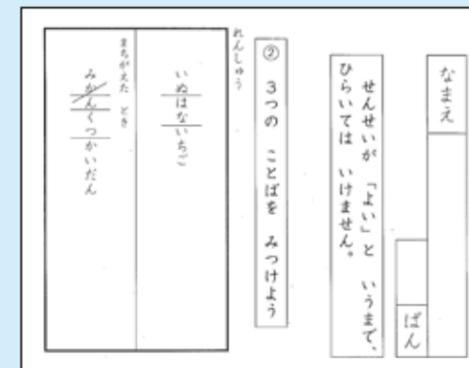
- ◆テスト1は、正しい表記の単語を素早く認識できる力を見ます。
- ◆正答以外の選択肢には混乱しやすい要素が入っています。
  - 具体的には、以下のような例です。
  - 形態の類似 (例：はーぼ)
  - 濁点・半濁点の有無 (例：うさぎーうさき)
  - 順序の入れ替え (例：りんごーりごん)
  - 音韻の類似 (例：だいこんーらいこん)
  - 長音 (例：ぼうしーぼおし)
  - 促音 (例：きってーきてーきつて)
  - 拗音 (例：いしゃーいしやーいしゅ)
  - 拗長音 (例：きゅうりーきゅりーきゅーり)
  - などです。



### ◆テスト2「3つの言葉探し」

3つの言葉が途切れなく連続して書かれているものを素早く読み、単語と単語の間を線で区切る課題です。

テスト2は、ことばを視覚的なまとまりとして素早く認識できる力を見るものです。  
例：“いぬはないちご” → “いぬ/はな/いちご”



MIM-PMと連動した教材があります。

## (2) 通級指導学級におけるアセスメント②

学級に読み書きが苦手な児童・生徒はいませんか。

- 単語をまとまりとして読むのが難しい。
- 書いた漢字の画数が多かったり少なかったりする。
- 漢字の書き順を間違えてしまう。
- 漢字のへんやつくりの組合せの理解が難しい。
- 言葉の意味が分からないので、文章の内容の理解が難しい。



◆このような児童・生徒の状態を把握し、学習支援を行うためのアセスメントとして有効なのが**読み書き支援プログラム**です。

### ◆読み書き支援プログラムとは

読み書き支援プログラムは、東京学芸大学で研究・開発されたものです。学習障害・自閉症などの多様な背景から、平仮名文や単語の読み書き、文章の読解等を苦手とする児童・生徒を対象に、アセスメントを基に障害特性に応じた学習支援についての方法が提示されています。学級全体での指導が可能なものから、個別で対応するものまであります。

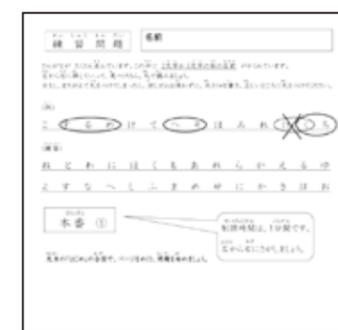
代表的な指導方法については、次のページで紹介します。この他にも、プリントで学習ができるものや、インターネットを利用して学習できるものなども用意されています。

アセスメントによる評価から対象の児童・生徒に応じて、教材を提示する機能もあります。

※読み書き支援ソフトの詳細は、東京学芸大学ホームページ「漢字学習の評価・支援ソフト ダウンロード」(<http://sne-gakugei.jp/teaching/user/koik/201305231005.html>)を御参照ください。

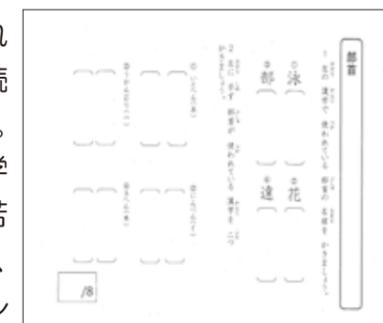
### ◆平仮名文の読み困難について

- ◆読みに障害のある児童・生徒は、音読にかかる時間が長く、読み詰まりが多い傾向があります。
- ◆読みに障害のある児童・生徒は、平仮名1文字を読むのに要する時間が長く、単語をまとまりとして読むことに困難があります。
- ◆読み書き支援プログラムでは、このような読みの困難を示す児童・生徒のためのプリント（「ひらがな単語連鎖」）が用意されています。



### ◆漢字の読み書き困難について

- ◆漢字は、種類が多く、読み方も音読みや訓読みなど複数あります。平仮名に比べて覚えなければならないことが多くあり、そのため漢字の読み書きの習得は、平仮名より難しさが伴います。
- ◆そこで、児童・生徒の得意とする力を生かして学習することが有効です。例えば、聴覚記憶は苦手であるが、視覚認知が優れている子供の場合、漢字をへんやつくり等に分けて視覚的に提示して学習するなどの方策が考えられます。



### ◆語彙の理解について—読解力につながる指導—

- ◆その児童・生徒がどれだけ言葉の意味が分かっているかといった語彙の評価は、読み書きや読解の指導に欠かせません。
- ◆読み書き支援プログラムでは、小学校1年から6年まで学年に応じた語彙のプリントを活用することで、語彙の理解力を高めます。

